令和4年度　大田区立南蒲小学校　自己評価　報告書

令和5年2月28日

○　本校の概要

【学校規模】 児童数：367名(11/13現在)　学級数：12学級　教員数：22名

【目指す学校像】 ○ 児童にとって、安心して自分を表現でき、目標をもってがんばる過程が認められ、自己肯定感が育まれる学校　○ 保護者にとって、安心して通わせることができ、子供たちのために協力したいと思える学校　○ 地域にとって、親しみと誇りを感じる存在で、学校の活動を応援・支援したいと思える学校　○ 教職員にとって、改善に向けた取組の成果や学校組織の一員としての貢献を実感できる学校

【校内研究】 ○研究主題：自尊感情を高める指導の工夫　○研究概要：自尊感情を高めることで学習に向かう意欲を喚起できるであろうという仮説の下、体育、構成的エンカウンターを取り入れた授業研究を行う。分科会(低・中・高学年分科会)の横軸と手立て部(学級活動部、行事部、教科(体育)部)の縦軸で研究組織を構成する。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3.33	目標やめあてをもって取り組んでいると回答した児童の割合。	4：80%以上 3：70%以上80%未満 2：60%以上70%未満 1：60%未満	3	・各学年が単元の見直しをするとともに、その年度に来ていただいたゲストティーチャーの記録を残す。 ・タブレットのハード面の課題を物品購入などで改善を図る。 ・保護者がオンライン授業の方針（中継の形で行う）を把握できるように、年度初めに周知する。 ・なんぽ一オリンピックと関連付けて、長縄に取り組む。	A	4	・体験活動、人権教育など、子どもの育成においてさまざまな取り組みをされていることが理解できた。 ・ICT機器を活用した授業を通し、学力の定着、学ぶ意欲など、子どもたちにどのような変化があったのか示していただきたい。 ・コロナ禍のため、マスクを付けると表情が分からず、コミュニケーションがとり辛かったことと思う。 ・今の社会はコミュニケーションが取れないと何事にも進んでいけないと思う。子どもにちゃんと自信をつけさせてほしい。 ・情報セキュリティを子ども向けにできるとさらに良いと思う。 ・キャリア教育のモデル校として創意工夫をし、子どものやる気を引き出し、社会の中に自分の有用感を感じさせ、生き生きと他者と関わる使らを付けさせようと努力されていると思う。また、学習のつまづきにもできるだけ対応している一方で、個々の学力差を埋めていくことが今後の課題であると思う。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	3					B	3	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3：80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：60%未満であった。	3.64					C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	3.18							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3.33					D	0	
プラン２　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	3	ワークテスト(国語・算数)の知識・技能において正解が80%以上の児童の割合。	4：80%以上 3：70%以上80%未満 2：60%以上70%未満 1：60%未満	4	・各学年でタブレットドリルの取り組み方が異なるので、学校で統一する。 ・保護者会でChromebookの使い方も含めて、一覧表を印刷して渡し、タブレットドリルの見方を周知する。	A	3	・個々の学力差をとても感じることがある。 ・自尊感情を育むにあたり、実際に子どもたち自身がどれほど理解しているのか…。とても難しいものだと感じている。 ・算数、数学は基礎が大事と言われている。 ・子どもは自分から勉強をしようとする子は良いが、今やらないと遅れてしまうので、やらない子にやらせなければならない。基礎を確立するために補習は必要であると思う。子どもたちと同じ目線で教育してほしい。 ・算数のステップシートの存在を知らない。 ・学校での学習の様子(学習進度ややっている内容など)についてもう少し保護者に開示してほしいという要望も聞いている。開示したことで、さらに学力差を生む結果も考えられるが、それぞれの子どものレベルでの達成感が各ご家庭でも生まれ、その子なりの学力定着への第一歩になるかもしれないと思っている。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	3.09					B	4	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	3.36					C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3.14							
		校内研究主題「自尊感情を高め、学級や学校で主体的に取り組む児童の育成～キャリア教育を通した指導の工夫～」に基づき、自尊感情の向上をねらいキャリア教育の充実を図る。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：「おおむねできた」と80%以上が回答した。 2：「おおむねできた」と60%以上が回答した。 1：「おおむねできた」と60%未満であった。	3.4					D	0	
プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	3.18	あいさつをしていると回答した児童の割合。	4：80%以上 3：70%以上80%未満 2：60%以上70%未満 1：60%未満	4	・家庭との連携を推進する。 ・１学年ずつ補習を行い、予算次第で曜日を増やす。各クラス児童４人とし、少人数教員と補助教員で補習を行う。 ・定着を図るために、補習、朝学の時間を有効に使う。 ・たてわり班の清掃活動の意義を保護者にも伝え、再開する。 ・軍手やトングを使用して、地域ボランティア活動として地域清掃を行う。特別支援学級の児童も安全にできるよう配慮する。	A	4	・道徳教育で、学校でのいじめは皆無にしたい。 ・子どもの頃から弱い人に手を貸す、そのような子どもに育ててほしい。 ・個々の自尊感情の指標を測るのはとても難しいと思うが、学校内で取り組むべき問題があった時、子どもと向き合い、真摯に解決していこうとしていれば、自尊感情も育ち他者を認める感情も生まれてくると思う。また、南蒲小での「たてわり班」の活動はその体験を通して自己有用感を高めるきっかけになっていると思う。 ・児童に寄り添う形での教育指導や生活習慣への正しい取り組みなどを行っているようで安心した。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	2.81					B	3	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3.88					C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3.58							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3.57					D	0	
		たてわり班活動で、円滑な異年齢交流を通して、つながりを深め、よりよい人間関係を築くことを意図した働きかけを実施する。	4：全教員（全たてわり班）が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	3.41							
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3.31	なんぽ一ランに参加した児童の割合。	4：80%以上 3：70%以上80%未満 2：60%以上70%未満 1：60%未満	4	・栄養士がT2として授業に参加し連携を図る。担任からの依頼があれば、実施は可能である。 ・今後も給食の放送で食育についてできるところから取り入れる。 ・外遊びの楽しさや、有用性を伝える。中休みか昼休みのどちらかは外遊びをする。学年の実態に応じて、目標を設定する。	A	5	・なんぽ一ランなど、継続しているものがあり、体力向上に積極的に取り組めていると思う。 ・生活習慣についての意識啓発は保護者においては、どのような働きかけを行っているのか具体的に知りたい。 ・スポーツは楽しく指導してほしい。 ・早ね。早起き、朝ごはんは家庭での基礎である。朝の準備体操やなんぽ一ランは良いと思う。 ・「早寝、早起き、朝ごはん」活動や「なんぽ一ラン」の全員参加、そして原材料の高騰の中で、給食メニューを工夫しながらの提供など、体力維持、健康増進を考え、より健やかな子供の成長のひと押しをしていると思う。 ・朝の取り組みやなんぽ一ランなど、継続して行っていることがすばらしい結果として表れていると思う。教職員の指導と尽力に感謝している。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3.09					B	2	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3.35					C	0	
		なんぽ一ラン（早朝ジョギング）への参加を促す取組を実施する。	4：全教員（全学級）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	3.09					D	0	
プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3.38	保護者による授業評価において「先生たちは子どもたちに分かりやすい授業をしていますか?」の項目で肯定的回答の割合。	4：80%以上 3：70%以上80%未満 2：60%以上70%未満 1：60%未満	4	・若手研修は１～３年目を主に４年目が取りまとめて実施した。 ・授業力向上研修については、今年度全教員が講師を務める形で実施た。全教員で授業力が高められるようにする。 ・保護者アンケート回答数　158件	A	5	・コロナ禍のもと、授業公開に行く機会がほぼなかったので、次年度は積極的に参加させていただきたいと思う。 ・制限ある中での研修は大変なことと思う。 ・子どもたちが安全安心に学校生活が送れるように、地域も協力しなければならないと思っている。 ・多様化する社会に伴い、その縮図となっている学校で、子どもと寄り添い、より良い教育環境をつくる努力をしていると思う。また、授業評価や保護者アンケートの内容を授業改善に生かし、対応している一方で、このアンケートに記名を求めることで意見が言いづらいという保護者の声も聞かれている。 ・教員の指導力向上や個人のスキルアップなど、努力が感じられる。一方で一部の教師の児童への接し方について、保護者から心配や疑問視する声も上がっている。特に低学年の児童には配慮が必要だと思う。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3.33					B	2	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3.7					C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	3.46							
		授業力向上研修及び若手研修を実施し、指導力向上を図る。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	3.23					D	0	
プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	2.83	保護者ｱﾝｹｰﾄ「学校は、教育活動を適切に伝えている。」「学校は保護者からの相談や要望に対して、適切に対応している。」の項目で肯定的回答の割合。	4：80%以上 3：70%以上80%未満 2：60%以上70%未満 1：60%未満	4	・地域連絡協議会について、出席した教員が内容を周知する。 ・各学年の毎月更新は負担がある。学年便りの公開、2ヶ月に1回の更新等に変更する。本年度と同様事前に各学年の年間計画を考えて、年度当初に担当が集約しておく。 ・保護者アンケート回答数　158件	A	5	・地域教育連絡協議会、学校HP、緊急メールなどで、学校の取り組み、様子を知ることができた。 ・今後も連携のもと、児童を見守り、地域力の強化を共に図っていきたいと思う。 ・地域と児童、生徒との交流が少なくなった。 ・地域での子どもたちへの教育はできないが、ちょっとした事で「社会での出来事はこうだよ」と教えることにしている。 ・ホームページの定期的な更新によって学校の様子を知ることができたりすることで、情報として入る内容は新しい地域と学校の一面だと思う。ここ数年で、地域と学校との関係は異なることもあるが、より良い関係を模索しながら、学校支援本部と協力し合い、開かれた学校を目指していると思う。 ・今まで以上に学校、地域、家庭の3つが連携していければと思っている。子どもたちのために少しでも協力していきたいと思う。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	3.14					B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	2.66					C	0	
									D	0	

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載す